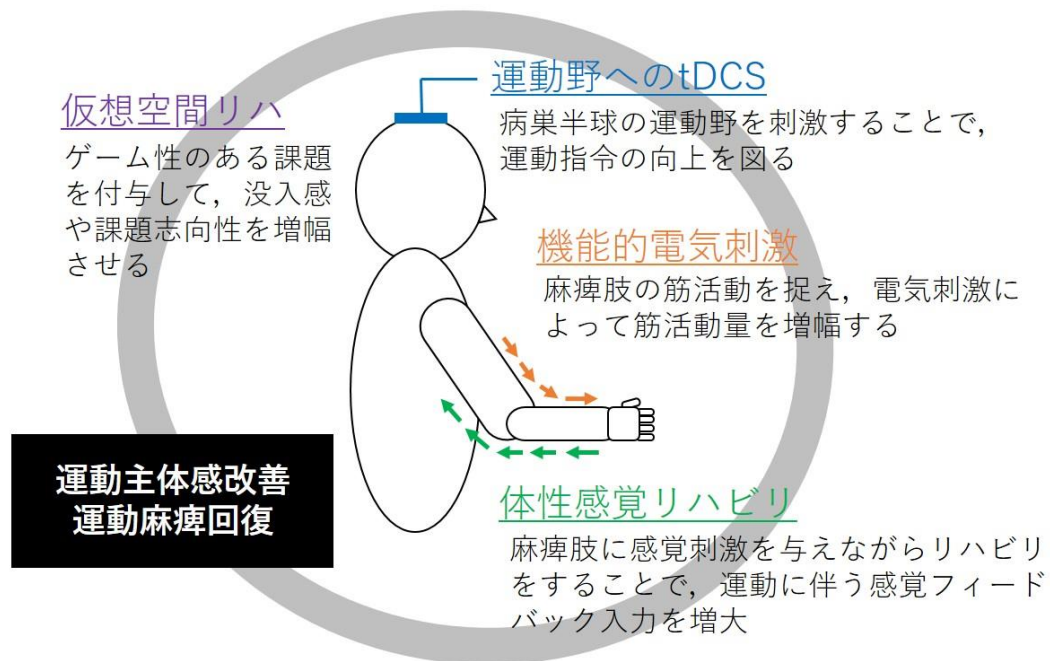


10. 他施設との共同研究

10.1. 脳卒中片麻痺の運動主体感を高めるハイブリッドニューロリハビリテーションの効果検証

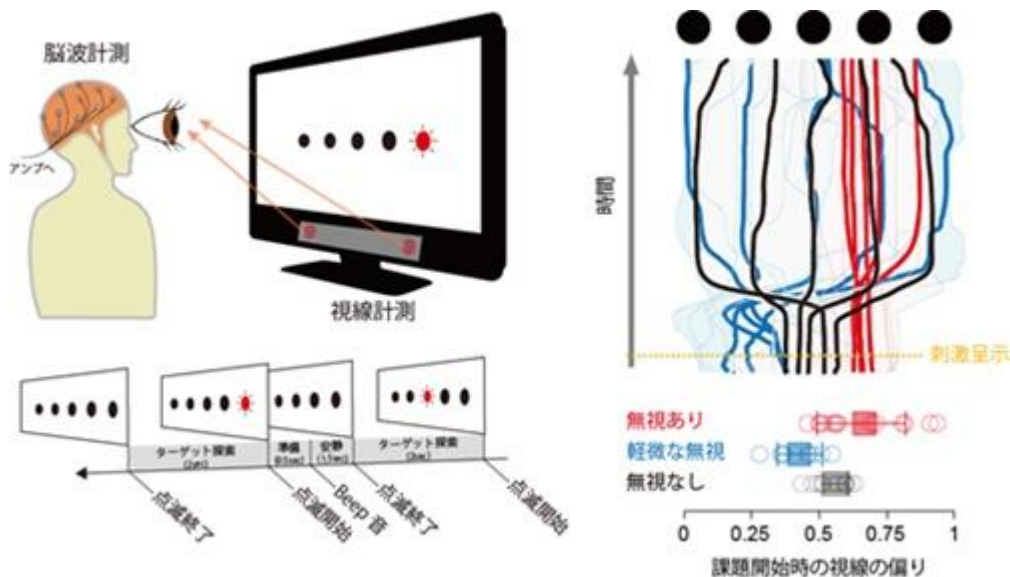
身体性の変容によって、脳卒中後の運動麻痺の改善が阻害されることが考えられています。本研究では、嶋田 総太郎 教授（明治大学・理工学部）および前田 貴記 講師（慶應義塾大学・医学部）と共同して、脳卒中後の運動麻痺からの機能回復と運動主体感および多感覚統合機能との関係を縦断的調査によって明らかにすることを研究目的としています。加えて、運動主体感の構成要素である運動意図、運動指令、実際の運動、感覚フィードバックの機能をそれぞれ高めるニューロリハビリテーション技術をハイブリッドに融合したリハビリテーションプログラムを開発し、その効果検証を行うことを目的としています。



- ① 脳卒中後片麻痺肢の多感覚統合機能を映像遅延装置にて定量的に評価します。
- ② 脳卒中後片麻痺肢の運動主体感を定量的に評価します。
- ③ 脳卒中後片麻痺肢を対象に、ハイブリッドニューロリハビリテーションを開発・実施し、その効果を明らかにします。

10. 2. 半側空間無視患者のニューロリハビリテーション

国立障害者リハビリテーションセンター研究所神経筋機能研究室・室長の河島 則天氏と共同して、半側空間無視における注意機能障害を解明し、新たなニューロリハビリテーションを考案しようと研究しています。今後も、半側空間無視患者の病態推定に繋がる評価およびそのニューロリハビリテーションを研究していく予定です。



10. 3. 幻肢痛のニューロリハビリテーション研究

この共同研究では、東京大学附属病院麻酔科/痛みセンターの住谷昌彦医師と共同して、幻肢痛に対するニューロリハビリテーションの開発/検証をしています。実際には、仮想的に幻肢を動かすことのできる Virtual Reality System を利用した幻肢の随意運動のニューロリハビリテーションが幻肢痛治療に有効であることを明らかにしてきています。

